

イ 生活のムダを見直そう（地域活動の実践）

⑦ 研究方法

ア 分散会

イ 全体発表討議 各分散会代表による発表討議

(4) 婦人会館事業

① 昭和50年度婦人研修のつどい

ア 趣旨

急激な社会の移り変わりに伴う日常生活の実態をみつめ、とくに極度におびやかされている家庭経済に対応するため、生活のムダを見なおし、明るく住みよい健全な家庭と社会をつくるための研究協議をする。

イ 期日 昭和50年9月10日～11日

ウ 会場 福島市飯坂町湯野字湯ノ上18
福島県婦人会館

エ 参加者 定員は40名、県婦連理事の推せん者
30歳～40歳 将来性に富む若い指導者

オ 内容

(ア) 主 題……「生活の無駄を見直そう」

——衣、食、住について

(イ) 内 容……社交、儀礼等について

冠婚、葬祭、年賀状、暑中見舞、中元
歳暮、病気見舞の返礼等

(ウ) 学習方法…バズセッション、体験発表、意見発表
話し合いに重点をおく、

② 昭和50年度若人のつどい

ア 趣 旨

生がいを通じた学習、婦人のライフサイクルなどの面から、次代にない手となる未婚女性を対象に、健康にして平和な明るい家庭づくり、社会づくりについて研修する。

イ 期日、会場

7月27日 いわき市中央公民館

8月31日 二本松市文化センター

ウ 参 加 者 25歳未満の未婚女性 50名

エ 内 容

(ア) 主 題……若人の誇りと、好ましい男女交際のあり方について

(イ) 内 容……交際のひろば、各種サークル活動、視野を広める教養活動、結婚の問題等

(ウ) 学習方法…バズセッション、話し合い、意見発表
全体討議、講演

これらの観点にたつて、本県においては、家庭教育の振興を図るため、昭和39年度より、国の施策と相まって「家庭教育学級」を市町村教育委員会に開設促進して以来、本年度補助学級 328学級、市町村費のみ83学級、計 411学級となり、毎年市町村費のみの学級開設増が図られ、着実にその実績をあげている。

第2に、幼児期における家庭教育の重要性にかんがみ、昭和47年度から、「家庭教育（幼児期）相談事業」を実施し、3歳児を第1子に持つ両親等に対して、はがき通信、テレビ放送により、幼児期における家庭教育上の諸問題についての学習資料を、直接家庭に届け、県内26か所で家庭教育上の疑問点について、直接専門家に個別相談を実施し、幼児期家庭教育の拡充に実績をあげている。

第3に、本年度より国庫補助学級として、乳幼児期の両親等を対象として、「乳幼児学級」が開設され、補助学級が22学級、市町村費のみ12学級、計34学級が市町村教育委員会に開設され、家庭教育学級とあいまって、家庭教育の拡充に実績をあげている。

なお、これらの事業の推進に当たっては、次の指導方針に基づいて拡充を図った。

(1) 家庭教育学級

○関係者の理解を深め、開設の増加を図る。

○特に、子供の発達段階に応じた学級開設の促進を図る。

○家庭教育について、市町村独自の研修会等の開催を促進し、学級運営等の改善向上に資する。

○家庭教育資料を提供し、その効果的活用を進める。

(2) 乳幼児学級

○関係者の理解を深め、開設の増加を図る。

○学級実施中の乳幼児の保育の設備や方法について改善くふうを図る。

○学習内容方法の改善充実を図る。

(3) 家庭教育（幼児期）相談事業

○事業の趣旨について対象者のみならず、広く県内全般に周知するようあらゆる機会を活用する。

○巡回相談の個所を増設するとともに、方法についても、くふう改善する。

○テレビ放送「ちいさな世界」については、特に、対象者はもちろん、一般に周知徹底を図るとともに、放送内容の充実を図る。

○各種学級における「ちいさな世界」放送利用の促進を図る。

○本事業対象者による「はがき通信」「ちいさな世界」の輪読・視聴グループの育成を図る。

2 家庭教育（幼児期）相談事業

(1) 趣 旨

幼児期における家庭教育の重要性から、特に3歳児を第1子に持つ親を対象に、家庭教育上の具体的問題を取り上げ、これを解決するために専門家等の協力を得て必要な情報を提供し、また個別的な相談を行い、家庭教育学級・乳幼児学級の充実とあいまって、本県の家庭教育の振興を図る。

第4節 家庭 教 育

1 概 要

近年における社会構造の急激な変化により、家庭の教育的機能の低下が指摘され、人間の徳性等の基本を培う家庭教育の振興が重要な課題である。

国及び地方公共団体は、両親等が家庭教育について持っている固有の教育権を効果的に行使できるよう、成人教育の一環として、その学習を促進する条件を整備する任務を持っている。